

ほほえみ

訪問看護ステーション

那須塩原市大黒町2-1-5

施設アピール

私達は、利用者様とご家族が、安心して在宅生活を送れるよう寄り添い、きめ細やかな支援を提供いたします。また、訪問診療と密な連携を取り、在宅での利用者様に対して、よりよい看護技術や質の高いリハビリテーションの提供ができます。利用者様・ご家族と一緒に笑ったり、共感したりしながら日々勉強の毎日です。皆さんの笑顔は、私たちの力になっていきます。より良い医療・看護を提供するために、私達が心身ともに健康であることが必須と考えています。



訪問診療の先生がおいでになるかと、ついついのぞいてしまいました。在宅医療をこの地域で取り組まれていて、ご本人、ご家族、多職種にとっても大きな存在ですね。

施設の役割や特徴



利用者保険割合
医療保険：2割
介護保険：8割

管理者 山下正子様



対象となる方

対象地域は、那須町全域と那須塩原市の旧黒磯地区になり、訪問先まで片道30分以上かかることもあります。

予防的な関わりから、終末期のケアまで幅広く対応しています。

「医療処置やリハビリのために通院するのが大変だ」

「退院後の生活に不安がある」

「誤嚥性肺炎を予防したい」

「認知症の進行を食い止めたい」

「自宅で最期を迎えたい」

「歩くのが大変になってきた」

「寝たきりになりたくない」

「かかりつけの医師に、訪問看護や訪問リハビリが必要だと言われる」などの、様々なご希望の声にお応えしています。

「ご相談などお気軽に」

「ご連絡ください。」

連携している主な医療機関

菅間記念病院、菅間在宅診療所の他に、三森医院、中川医院、見川医院、あしのメディカルクリニック、近隣病院・開業医など、那須郡市医師会の先生方にお世話になっていきます。

ケアマネジャーとの連携

在宅医療・介護を支えるチームとして、もっと声をかけて下さい。今はコロナ禍で、通常の連携が取りにくいかもしれませんが、インターネットを利用すれば、「メディカルケアステーション」でもっとつながれるかと考えています。

看護師は、怖いでしょか。遠慮なく、声をかけて下さいね。

「私、那須町出身なんです。訪問看護師は、資格を取った時から将来はぜひやりたいと思ってました。」笑顔の瞳の奥から、やりがいを持ってお仕事されていることが、きらきらと伝わってきました。2021年5月からの新所長さん！心打たれました。

この笑顔に
会いに行きましょう。



「メディカルケアステーション」は、必要な情報が届き、タイムリーに対応できるという利便性があります。

ケアマネジャーに期待すること

利用者様の情報を共有しましょう。ターミナル期の訪問看護の関わりは、もう少し早い方がいいと思いますので、導入時期や急変時対応について、ぜひ声をかけて下さい。早い段階での予測が必要ですよのね。もちろん、医療系と福祉系ケアマネジャーの違いはよく理解しています。居宅支援事業所内のケアマネジャー間で、事例検討、情報共有・交換をしながら、お互いの質を高め合いましょ。

定例会・朝のカンファレンス

情報共有、事例検討は、週1回火曜日の16時30分から定例会として実施しています。毎朝のカンファレンスは、8時30分から、医師・看護師・リハスタッフ全員で行い、その後はまたそれぞれ打ち合わせを行います。スタッフ間で顔をみながら話をするので、健康状態も分かりやすい。いいサービスを提供するには、スタッフがよい状態でないといけないね。

利用者様の作品が窓口や壁に飾られていました。そんなところにも利用者様への愛情が感じられます。



心に残った事例

○嚥下機能が低下し、胃瘻造設をしている高齢の男性で、奥様と二人暮らし。経口摂取は、ごく少量のお楽しみ程度の水分だけと医師から言われていても、どうしても固形物が食べたくて、奥様がお豆腐を小さなさいの目にし、あんかけ状にしたものを食べていました。その後38度の発熱があり、緊急訪問要請に対応し、誤嚥した豆腐の吸引をして、すぐに解熱するということを、何回も繰り返していたケースでした。奥様も高齢で、吸引をする事がどうしてもできませんでした。大変お料理が上手な奥様で、ダメとは分かっているけど、美味しそうに、喜んで食べる様子を見るのは、とても幸せな時間だったと思います。

○呼吸器系疾患で大好きな家で、在宅療養を選択された男性。奥様が傍にいと安心する一方で、吸苦が出た時に、緊急訪問要請があり対応しました。援助としては背中をさすったり、安楽になる呼吸介助をする程度でしたが、ご本人から「あなたの背中に天使の羽が見える」と、冗談交じりに言って頂け、安心を提供できたのかなと微笑ましく聞いたことが、とても印象に残っています。



おばあさんの笑顔がいいですね！

